

みたか環境ひろば 第68号

令和元年 7月22日号



「エコミュージカルとエコイベント」を開催しました！

6月は環境月間。昨年に続いて6月30日、今年も「エコミュージカルとエコイベント」を三鷹市公会堂光のホールで、みたか環境活動推進会議と三鷹市主催で開催しました。

午後1時30分の開場と同時にロビーで開始した「エコイベント」の目玉は「エコ楽器ワークショップ」。ペットボトルを再利用して消費期限切れの古米を入れたマラカス作るというワークショップです。これを使って、ミュージカルに参加できると聞いた小さな子たちが、おぼつかない手で一生懸命作っていました。

そのほかにも、こわれたおもちゃをお医者さんが治してくれる「おもちゃの病院」、家庭で余っている未開封食料品を必要としている家庭や団体にフードバンクを通じて寄付をする「フードドライブ運動に参加しよう！」コーナーも開設されました。また、環境展「減らそう！海ごみ 考えよう！分別」として、環境政策課のプラスチックごみの実態や海洋生物への影響を学ぶ展示や、ごみ対策課の「正しいごみの分別を」というパネルの展示が行われました。

2時30分からは、ミュージカル上演に先立ち「新しい時代をむかえて、わたしができること」をテーマにした環境標語表彰式が行われました。市長賞の小学5年生の松本小鞠さんの「ごみへらそう みつつのRをたいせつに」をはじめ12人の標語が受賞しました。（受賞作品は市のホームページで見ることができます。）

3時からは、「みんなで地球のこと、考えてみませんか」を問いかけたミュージカル「ネバーランドはECOの島Part 2」～花と緑のエコロジーランド～（構成脚本演出—いづみかおる、舞台製作—メルヘン・ミュージック・シアター日本芸術企画）が開演しました。

海賊のフック船長の悪い教えに染まっている島の子どもたちは「自然、もの、人を大切にする心」を失っています。島を訪れたピーターパンと三姉弟は、フック船長や子どもたちに「地球を大切にする心」を伝えようとします。歌やダンスで繰り広げられる舞台は華やかで元気いっぱい。オーディションで選ばれた市内の30人の小学生は、稽古でプロの役者さんの指導により、歌とダンスが上達し立派に舞台を盛り上げていました。劇中では、ピーターパンの呼びかけで会場の子どもたちも、手作りマラカスでエコミュージカル音楽会に参加しました。観客と舞台が一体となってフィナーレを迎え、「いのちに終りは必ずあるけれどやがていつかは芽が出てつながれる」という自然を守ることの大切さを歌い上げた舞台は大成功でした。

「来年もやってくれたらこの子たちも舞台に上げたいね」ふたりのお子さんの手を引いた若いご夫婦が話していました。（前田）



★ エコミュージカルの様子 ★



★ 「エコ楽器ワークショップ」の様子★

季節の花など

毎年、その季節ごとに色々な花が私達を楽しませてくれます。

我が家の小さな庭でも、何十年もつつじ、さつきが時期をずらし花をつけます。最近、昔より花の数が少なくなってきたように思ったのですが、今年はここ何年かぶりに数多く咲いてくれました。

気候の変化など、いろいろな要因があるのかと思いますが、今年は長い期間楽しめました。

日本のほかに、つつじ、さつきがこの様に見事に咲く国はあるのでしょうか。

また、鳥が運んできてくれたと思われる赤い実をつける千両、（今年は黄色い千両も実をつけました。）万両がここ何年かで庭のあちこちに増えてきて、それもお正月の生け花に足したりして、楽しめました。それから、悩みの種である雑草も、昔と比べると種類が本当に変わってきていて、不思議なものだと思います。

この様に、身近な我家の庭でもいろいろな変化が楽しめており、これからも気をつけて見ていきたいと思っています。（石川）



無洗米は優等生？

数年前に友人から玄米を頂いたことがきっかけで、精米機を購入いたしました。

購入した精米機は精米機能が豊富で、白米、無洗米と迷いながら精米しています。私は、昔からお米は研いでから炊くもの、水に浸けてから炊くものだと教えられてきました。そのためか、白米に精米することが多いです。

つい最近、テレビで無洗米のことが放映されておりました。無洗米は、環境汚染をなくすためにできたお米だそうです。お米の研ぎ汁は川や海に流されて、富栄養化を招いていて、赤潮、青潮発生の原因になるそうです。無洗米は、米ヌカを精米段階で除去しているので、研ぎ汁が排出されない環境に優しいお米だそうです。無洗米は優等生なのですね。

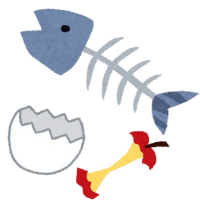
台所排水の中でも、お米の研ぎ汁は極めて少ないのではないかと思います。



昔の人々が、沢山お米を食べていましたし、「お米離れ」と言われているこの時にお米の研ぎ汁を環境汚染の原因にするには、少し無理があるように思います。

台所の排水問題は心掛け一つで変わります。皆で食べ残しを流さない、洗剤を使う量を少なくするなどして、環境汚染を減らす努力をしていきたいと思いました。昔を思い出して、お米の研ぎ汁をお花にまいてみようと思いました。（上野）

ごみ0を目指して



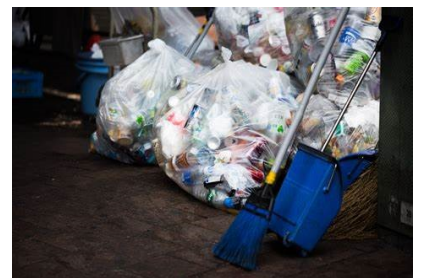
環境問題に関して、廃棄物の発生抑制を図り、資源とごみの分別及び減量をするためには、行政の施策と市民の理解と協力が必要です。

分別数が増えれば、ごみの排出量事態が減少する傾向があります。1人が1日当たりに出すごみの量は、4種類に分別している自治体では、平均1,103gですが、26種類以上の分別の場合には860gまで減少します。分別は心理的負担

になるため、ごみが出にくい商品を選んで買うなどの背景があるそうです。（2019年4月18日「朝日新聞」より）

三鷹市では、1人1日あたり約692g（平成30年度）のごみを排出しています。家庭から出るごみで可燃物のうち約13.4%を生ごみが占めています。（平成29年度「多摩ごみ実態調査」より）皆さんもご存じのとおり、生ごみは大量の水分を含んでいます。水分を含んだ生ごみは、高い運送費用がかかり、より多くの灯油や都市ガスを使って燃やさなければいけません。生ごみの水切りを可能な限り徹底することが、灯油や都市ガスの消費が少なくなり地球温暖化防止に役立ちます。

ビニール袋は、生ごみの水切りをしなくてもそのまま出せますが、紙袋は水切りをしないと破れてしまいます。生ごみを燃やせるごみから分別して紙に入れて出す方法は、ごみ減量の効果的な施策だと私は思います。（斎藤）



編集後記

平成から令和へと年号が代わり一時の盛り上がりも落ち着いた今日、改めて年号の推移を見ると、先と後の文字は“平和”の言葉と成る。災害の少ない平和の令和を望みたい。

三鷹は意外と桜並木が多く、“桜の街”と葉桜になってしまった後に気付く。路面に覆われた落ちた桜の花びらの中のゴミが目につく、自然美と人工物との差であろうか？

清々しい春から梅雨へと向かい小雨の中の紫陽花（あじさい）の清々しさを思う。花言葉は青：辛抱強い愛情、ピンク：元気な女性、白：寛容とある。また、咲く時期により色が変わるため、移り気とも…！

四季の有る日本列島、自然美を永遠に残したい。（平澤）

次回の発行は令和元年10月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
（愛称 みんなの環境）

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電話 0422-45-1151 内線2523・2524
E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp
本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。